

龍谷大学アジア仏教文化研究センター ワーキングペーパー

No. 14-6 (2014 年 3 月 31 日)

調査報告

龍蔵の経版について

—中国大蔵経と中国仏教の現在—

木田知生
(龍谷大学文学部教授)

【キーワード】

大蔵経 龍蔵 印刷 中国仏教

はじめに

本報告は 2011 年 8 月に実施した中国北京での訪問調査を基にして構成した。その後、同年 11 月 28 日の報告発表に際して同僚諸氏から頂戴した提言と、近年の知見を加えて内容を幾らか増補している。

主に「龍藏」（すなわち「乾隆大藏經」もしくは「大清大藏經」，略して「清藏」とも称する）の経版の保存と修復の現況についての報告であるが，その成立ちを理解する上でも「龍藏」に先行する種々の大藏經についての論述も加えた。

また現代中国での仏教事情に関しては，現今の大藏經の影印普及・仏寺の隆盛等の事象と合わせ，更なる調査探求が必要と思われるが，本報告では簡単に言及するに止めた。今後，多方面からの考察が必要となろう。

本報告作成に際して，御協力・御教示を種々頂戴した李際寧先生（中国国家図書館善本特蔵部）・何梅先生（中国社会科学院世界宗教研究所）・方廣鋁先生（上海師範大学哲学系），並びに参観を御認め頂いた何唯良先生（北京邦普製版印刷有限公司董事長）に深く感謝申し上げます。

（各位の所属先はいずれも参観取材当時のもの）

龍蔵の経版について

中国大蔵經と中国仏教の現在

木田知生 2011年11月28日
於龍谷大学大宮学舎清風館
2014年12月増補

大蔵經とは

- 佛教典籍を集大成した叢書の名称
- “佛蔵” “一切教” “經蔵” “衆經”
“三蔵” “蔵經” とも呼称, また “蔵” とも簡称
- 南伝パーリ語三蔵／中央アジア各種言語仏典
／北伝漢文大蔵經／北伝チベット語大蔵經
- その他：西夏文大蔵經／蒙文大蔵經
／滿文大蔵經等
- 漢文大蔵經：数量最多, 影響最大

手写本時代

- 手写本(写本)時代：後漢時代～晚唐五代
- 東晋 道安(312-385)《綜理衆經目錄》(参考《出三蔵記集》)
- 隋 費長房《歷代三蔵記》(597年撰)
- 《大唐内典錄》《大周刊定衆經目錄》《開元釈經錄》および《貞元晋定釈經目錄》等
参考：宿白著《漢文佛籍目錄》
- 唐 智昇(658-740)《開元釈經錄》
- 皇家官蔵仏典 度牒制度等：国家管理の強化, 大蔵經の統一へ
- 敦煌写本・房山石經
- 刻印本(刻本)大蔵經へ
参考：方広錫著《中国写本大蔵經研究》等

刻印本の時代1

- 刻印本(刻本)時代：北宋時代～現代
- 木刻本の時代／近現代印刷本の時代
- 木刻本：北宋《開宝蔵》～清代《乾隆大蔵經(龍蔵)》

参考：『大蔵經一成立と変遷一』(小川貫弍執筆代表)
李富華・何梅著《漢文佛教大蔵經研究》
李際寧著《佛教版本》等

刻印本(木刻本・印刷本)大蔵經の歴史1

《開元釈教錄》(唐玄宗開元18年, 730年) * 《開宝蔵》の主たる依拠
《房山石經》(隋-明, 石刻本) * 北京房山区雲居寺

宋蔵：

1. 《開宝蔵》(北宋, 971年-983年, 官版, 四川蜀版) * 卷軸装本
⇒《高麗蔵》《趙城蔵(金蔵)》 * 「中原系」大蔵經
2. 《崇寧蔵》(北宋, 1080年-1104年, 私版 福建福州東禪寺)
3. 《毘盧蔵》(北宋-南宋, 1112年-1151年, 私版 福建福州開元寺)
4. 《圓覺蔵》(北宋末開雕-南宋1132年, 王氏私版, 浙江湖州思溪圓覺禪院)
* 《前思溪蔵》
5. 《資福蔵》(南宋年間, 私版 江西吉州法寶資福寺) * 《後思溪蔵》
6. 《磧砂蔵》(南宋-元英宗至治二年1322年, 私版 江蘇蘇州磧砂延聖院)
* 2~5 ほぼ《開元釈經錄輯出》に依拠, 經折装本 * 「南方系」大蔵經

刻印本(木刻本・印刷本)大蔵經の歴史2

遼蔵：

《遼(契丹)蔵》(大字本・小字本) * ほぼ《開元釈經錄》に依拠, 「北方系」
《房山石經》遼金刻經は《遼蔵》に依拠

金蔵：

《趙城蔵》(金代, 1149年-1173年, 私版, 山西解州天寧寺, 元代補雕,
1933年, 山西省趙城縣霍山広勝寺発見)
* 近年刊行《中華大蔵經》の主要底本 「中原系」

元蔵：

《普寧蔵》(元代, 1277年-1290年, 私版, 浙江杭州余杭白雲宗南山大普寧寺)
* 主に《圓覺蔵》に依拠 「南方系」
《元官蔵》(元代, 1330年-1336年, 官版)
《弘法蔵》(元代, 官版, 北京弘法寺) * 《金蔵》補雕後の別名 「中原系」
参考：元代官修經錄《至元法寶勘同總錄》

刻印本(木刻本・印刷本)大蔵經の歴史3

明蔵：

- 《洪武南蔵》 (明代, 1372年-1399年, 官版) 経折装本 「南方系」
- 《永楽南蔵》 (明代, 1412年-1417年, 官版) 経折装本 「南方系」
- 《永楽北蔵》 (明代, 1421年-1440年, 官版) 経折装本 「南方系」
- 《楊家経坊蔵》 (明代, 1422年以前, 私版, 杭州楊家経坊) 《磧砂蔵》に依拠
経折装本 「南方系」
- 《嘉興(徑山)蔵》 (明清時代, 1579年-1676年-1723年, 私版 浙江徑山寺等)
方冊本 「南方系」
- 《万曆蔵》 (明末清初, 1589年-1657年, 私版) 経折装本 「南方系」

清蔵：

- 《清蔵(龍蔵)》 (清代, 1735年-1738年, 官版) 経折装本 「南方系」

刻印本(木刻本・印刷本)大蔵經の歴史4

- 《頻伽蔵》 (清末-民国初年, 1909年-1913年, 私版, 上海頻伽精
舎排印本) * 別称《哈同大蔵經》
日本《弘教蔵》を底本
- 《普慧蔵》 (中華民國, 1943年, 私版, 上海普慧大蔵經刊印会排
印本) 未完に終わる
- 《中華大蔵經》 (中華人民共和国, 1983年-2004年, 中華書局影印)
* 《金(趙城)蔵》を底本 「中原系」

朝鮮大蔵經

- 《高麗蔵》 (《初刻(初雕)》, 1011年-1082年/《二刻(再雕)》, 12
36年-1251年, 高麗官版) 「中原系」

刻印本(木刻本・印刷本)大蔵經の歴史5

日本大蔵經(《弘安蔵》《天海蔵》省略, 主要大蔵經の概略のみ)

- 《黄檗(鉄眼)蔵》 (江戸時代, 1669年-1678年, 修訂数次, 京都私版)
* 明《嘉興蔵》覆刻本に依拠, 経版尚存
- 《弘教蔵(縮刷蔵經)》 (明治年間, 1880年-1885年, 私版, 東京弘教書院排
印本) * 明・智旭《圓蔵知津》分類を参照, 「日本撰述
部」を新設, 《高麗蔵》を底本, 各大蔵經を参照
- 《卍(万字)蔵》 (明治時代, 1902年-1905年, 私版, 京都蔵經書院排印
本) * 線装本, 《大日本校訂訓点大蔵經》
- 《卍(万字)続蔵》 (明治-大正, 1905年-1912年, 私版, 京都蔵經書院排印
本) * 《大日本続蔵經》 線装本 《新纂大日本続蔵
經》(国書刊行会, 1975年-1989年)
- 《大正蔵》 (大正-昭和, 1924年-1934年, 私版, 大正一切経刊行会排
印本) * 《大正新脩大蔵經》精裝本全100冊, 主に《高
麗蔵》を底本, その他, 宋元明三蔵(《資福蔵》《普寧
蔵》《嘉興蔵》)等を用いて校訂 「中原系」?

宋・遼・金・元時代の大蔵經

- 《開宝蔵》 (北宋官版)
- 《崇寧蔵》 (北宋私版)
- 《毘盧蔵》 (北宋-南宋, 私版)
- 《圓覺蔵》 (北宋-南宋, 私版)
- 《資福蔵》 (南宋私版)
- 《磧砂蔵》 (南宋-元, 私版)
- 《趙城蔵》 (金代私版, 元代補彫)
- 《普寧蔵》 (元代私版)
- 《元官蔵》 (元代官版)
- 《弘法蔵》 (《金(趙城)蔵》補雕本)

明清時代

- 《洪武南蔵》 (明代官版)
- 《永楽南蔵》 (明代官版)
- 《永楽北蔵》 (明代官版)
- 《楊家経坊蔵》 (明代私版)
- 《嘉興蔵》 (明-清, 私版)
- 《万曆蔵》 (明末清初, 私版)
- 《清蔵》(龍蔵) (清代官版)

その後(清末民国以後)の大蔵經

- 《頻伽蔵》 (清末-民国初年, 私版, 排印本)
- 《普慧蔵》 (民国私版, 排印本)
- 《弘教蔵》 (日本明治・私版・排印本・1880-1885)
- 《卍(万字)蔵》 (日本明治, 1902年-1905年, 私版, 排印本, 線装本,
京都蔵經書院排印本) * 《大日本校訂訓点大蔵經》
- 《卍(万字)続蔵》 (明治-大正, 1905年-1912年, 私版, 排印本, 線装
本, 京都蔵經書院排印本) * 《大日本続蔵經》
* * 《新纂大日本続蔵經》(国書刊行会, 1975年-1989年)
- 《大正蔵》 (日本大正-昭和, 私版, 排印本, 精裝本, 1924-1934
高麗蔵を底本)
- 《中華大蔵經》 (中華書局, 私版, 景印本, 精裝本, 金蔵を底本)

歴代大蔵経作成地域図

蔡運辰編著《二十五種藏經目錄対照考》(新文豊出版公司)



近年の大蔵経関連新収穫 (主要論著のみ)

2014年12月補

- 方廣鋁・李際寧主編『開宝遺珍』(文物出版社, 2010年10月)北宋初刊刻《開宝藏》の現存12巻を巻軸装で複製したもの。
- 蘇志雄主編『歴代大蔵経序跋略疏』上下冊(宗教文化出版社, 2012年1月)歴代の大蔵経の序跋420余篇について大略「疏注」を記述したもの。
- 何梅著『歴代漢文大蔵経目錄新考』上下冊(社会科学文献出版社「中国社会科学院文庫・哲学宗教系列」, 2014年2月)歴代31種大蔵経の総合目錄である。

清代大蔵経について

- 雍正時代に刊刻が始まる
- 乾隆初年に完成
- 「大清大蔵経」「清蔵」「乾隆大蔵経」「龍蔵」とも呼ばれる
- 龍谷大学大宮図書館に所蔵(清宮寄贈本)

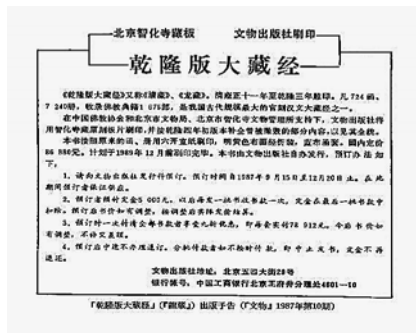
龍蔵の概略1

木田「龍谷大学所蔵の龍蔵について」(『龍谷大学論集』第471号, 2008年)



龍蔵の概略2

「乾隆版大蔵経」出版予告(1987年)



龍蔵の経版

- 底本：主として《永樂北蔵》を底本とする
- 装幀：経折版 1669部 7168巻 千字文分類, 「天」字から「機」字まで 全724函, 每函10巻(冊)
- 雕版：79036枚 梨木
- 版面：正文25行, 5枚(半頁)に折る 毎頁5行 毎行17字
- 印刷：乾隆初印本100部 民国24年(1935年)22部印刷
その間, 不定期且つ例外的に印刷。拙稿参照。

龍蔵経版の所蔵経過

- はじめ故宮(紫禁城)武英殿に所蔵、のちに柏林寺(北京雍和宮の南)
- 1982年には智化寺(北京東城区)に所蔵されていた。
- さらに故宮午門・房山文物管理委員会等に移管されたとの報告。

龍蔵経版の保存現状1

- 現在は北京市大興区榆垓鎮の「北京邦普制版印刷有限公司」印刷工場内に保管。
- 2009年、北京市文物局が「北京邦普制版印刷有限公司」に経版の保存整理を委託。
- 博華文盛文化発展会社が資金提供、政府が資金援助。
- 約6000㎡の経版専用倉庫と作業工房を建設。
- 2010年1月、保存作業を正式に開始。

龍蔵経版の保存現状2

- 龍蔵経版の重量は每版約4.5キロ、総重量は360トン、総体積は1000㎡を超える。
- 2010年1月から2011年6月の間、延べ人数35000人を動員、経版の千字文配列を確認整理。
- もともとの経版総数は79036枚、現存数は69410枚、すでに9626枚が失われた。

龍蔵経版の保存現状3

- 現存経版の二割以上に何らかの損壊有り。
- 補刻作業の基礎となる乾隆四年初印本を調査。
- 龍蔵は三次の「撤毀」を経ているため、補刻の底本となる経版を各地の所蔵機関・寺院より搜集。
- 1. 底本選定 2. 材料選定 3. 補刻作業

龍蔵経版の保存現状4

- 補刻のための版木材質選定に苦心。
- 原経版は梨木、每版：幅75cm、高さ28cm、厚さ5cm
- 南アメリカ原産の「花梨木(カリン)」を使用。
- 龍蔵および関連データのデジタル化に着手。

龍蔵経版の印刷発行

- 原則的に原経版を用いて手作業で印刷し、装幀製本後に発行予定。
- 装幀(経折本)は故宮旧蔵の乾隆初印本に基づく。
- 紙は安徽省涇県産の宣紙を使用。

- 北京邦普制版印刷有限公司のHPは2014年12月現時点で閉鎖中であるが、2015年中には故宮博物院・首都博物館と合同で「龍藏」（経版）を含めた各種大蔵經の展観が予定されている。

- 嘉興蔵の再刻や各寺院による大蔵經新刻新編の計画が幾つか進められている。

千字文 梁·周興嗣(?—521)

千字文 梁·周興嗣(?—521)

[illegible]

A wide-angle photograph of a large, modern textile factory floor. Numerous workers are seated at long, white workstations arranged in rows. The room is filled with large windows on the right side, providing ample natural light. The floor is green, and the ceiling has exposed ductwork and lighting fixtures. In the foreground, a worker is operating a large industrial machine, possibly a loom or a dyeing machine, which has a large spool of thread. The overall atmosphere is one of a busy, organized industrial environment.

龍蔵経版の現況5



龍蔵経版の現況6



龍蔵経版の現況7



龍蔵経版の現況8



龍蔵経版の現況9



龍蔵経版の現況10



龍蔵経版の現況11



龍蔵経版の現況12



龍蔵経版の現況13



龍蔵経版の現況14



龍蔵経版の現況15



龍蔵経版の現況16



龍蔵経版の現況17



龍蔵経版の現況18



龍蔵経版の現況19



龍蔵経版の現況20



龍蔵経版の現況21



龍蔵経版の現況22



龍蔵経版の現況23



龍蔵経版の現況24



龍蔵経版の現況25



龍蔵経版の現況26



龍蔵経版の現況27



龍蔵経版の現況28



龍蔵経版の現況29



龍蔵経版の現況30



龍蔵経版の現況31



龍蔵経版の現況32



龍蔵経版の現況33



龍蔵経版の現況34



龍蔵経版の現況35



龍蔵経版の現況36



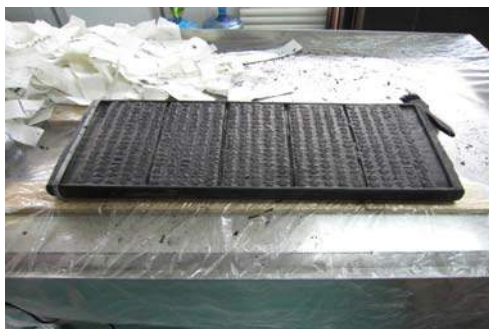
龍蔵経版の現況37



龍蔵経版の現況38



龍蔵経版の現況39



龍蔵経版の現況40



龍蔵経版の現況41



龍蔵経版の現況42



龍蔵経版の現況43



龍蔵経版の現況44



龍蔵経版の現況45



龍蔵経版の現況46



龍蔵経版の現況47



龍蔵経版の現況48



龍蔵経版の現況49



龍蔵経版の現況50



龍蔵経版の現況51



龍蔵経版の現況52



龍蔵経版の現況53



龍蔵経版の現況54



龍蔵経版の現況55



龍蔵経版の現況56



龍蔵経版の現況57



龍蔵経版の現況58



《清敕修大藏經(龍藏)》

北京什刹海広化寺での「開光祈福法会」 2011年9月18日



《清敕修大藏經(龍藏)》 首発式

於北京政治協商會議常務委員會會議庁 2011年9月22日



中国仏教の現在と将来

- 仏教出版物の盛況
- 一般向け書籍の多彩化
- 仏教関連WEBサイトの隆盛
- 電子書籍・データベースの普及と利用

仏教出版物の盛況1 (於琉璃廠海王邨中国書店)



仏教出版物の盛況2 (於中関村図書大厦)



中国仏教研究の課題—おわりにかえて—

- 漢訳仏典の意義とその時代性の認識
- 漢訳仏典の通史的基礎知識
- 仏教名山・名寺等の知識
- 現地探訪と調査の必要性
- 漢訳仏典の研究は中国学(哲史文)の諸面からのアプローチが必要不可欠